

1. はじめに

地質部会では、平成7年度から8年度にかけて、四国の活断層に関する既往の調査・研究資料に関する文献調査を実施し、四国およびその周辺地域に分布する活断層に関する現知見の取りまとめを行った。その結果、四国の地震防災上今後評価必要とされる活断層の候補を選定し、またこれらの活断層から発生すると想定される地震および四国における地震動予測の基礎資料を作成した。

平成8年度には科学技術庁の地震調査研究交付金を受け、香川県の長尾断層、更に補正予算で愛媛県の中央構造線伊予断層帯および高知県の仏像構造線等の調査が着手され、平成9年度には徳島県の中央構造線活断層系の調査が開始されるようになった。そこで、平成9年度には、四国各地で進められている活断層の最新の調査結果をできる限り採り入れ、四国の活断層から発生する地震の予測に関する精度を高めることとした。

また、兵庫県南部地震によって活断層近傍の強地震動を予測する上で、活断層が形成する地下構造が重要であることが明らかになった。このため、平成9年度では四国の主要都市のある平野の地下構造に関する資料の収集、検討も実施した。

本部会の検討は、平成10年2月までに公表された調査研究資料に基づくものである。このため、今後四国内で実施される詳細な活断層調査の結果によって、将来再評価する必要があると思われる。したがって、本報告を基に予備検討を実施する場合には、資料の精度・信頼度を十分ご配慮いただきたい。